

2024年12月期 第3四半期

決算補足説明資料



株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しております。
- ✓ 2021年12月期以前の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- ✓ 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。これに伴い、2022年12月期 第2四半期から、「防災用貯給水タンク」の業績を「防災・工事事業」から「継手事業」にセグメント変更しております。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

1. 2024年12月期 第3四半期決算概要

2. 2024年12月期 業績予想

3. 海外半導体関連市場への対応

(補足資料)テクノフレックスの概要



▲ 建設中の北海道工場(イメージ)

1. 2024年12月期第3四半期決算概要

◆ 連結業績(前年同期比・予想比)

単位:百万円

	連結業績		前年同期比		通期予想比	
	2023_3Q	2024_3Q	伸長額	伸長率	計画値	進捗率
連結売上高	15,594	16,020	426	2.7%	23,000	69.7%
連結営業利益	1,083	1,574	491	45.4%	2,300	68.5%
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	645	1,038	392	60.7%	1,500	69.2%

● 連結売上高

- ✓ 海外の半導体関連を中心に、継手事業が売上を伸ばし、連結売上高が、当期 3Qで前年同期比プラスに転じました。
- ✓ 他の3セグメント(防災・工事事業、自動車・ロボット事業、介護事業)は、前年同期比マイナスでした。

● 連結営業利益

- ✓ 連結売上高が前年同期比プラスに転じたことと、防災・工事事業で、上期に利益率の高い案件があったこと等から、前年同期比45.4%増となりました。
- ✓ 当期 3Qで、前年通期の営業利益(1,482百万円)を上回りました。

● 親会社株主に帰属する四半期純利益

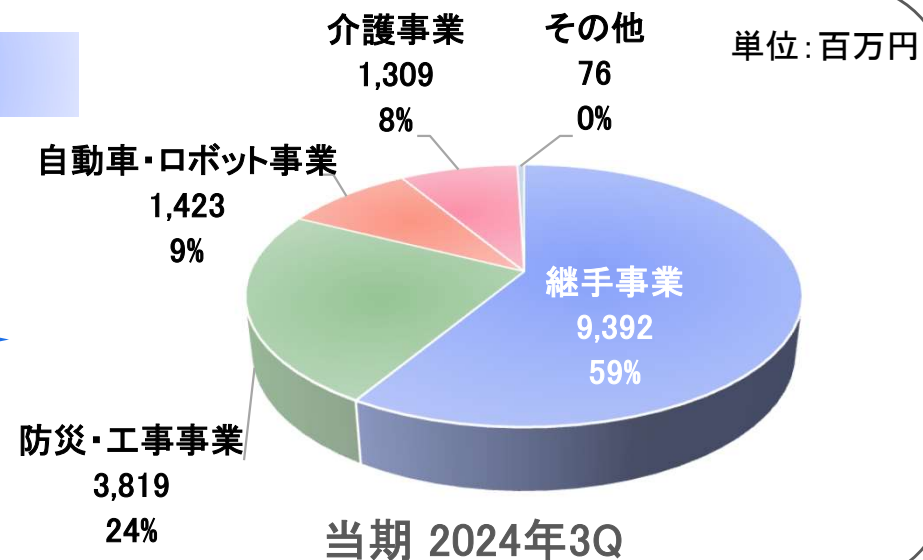
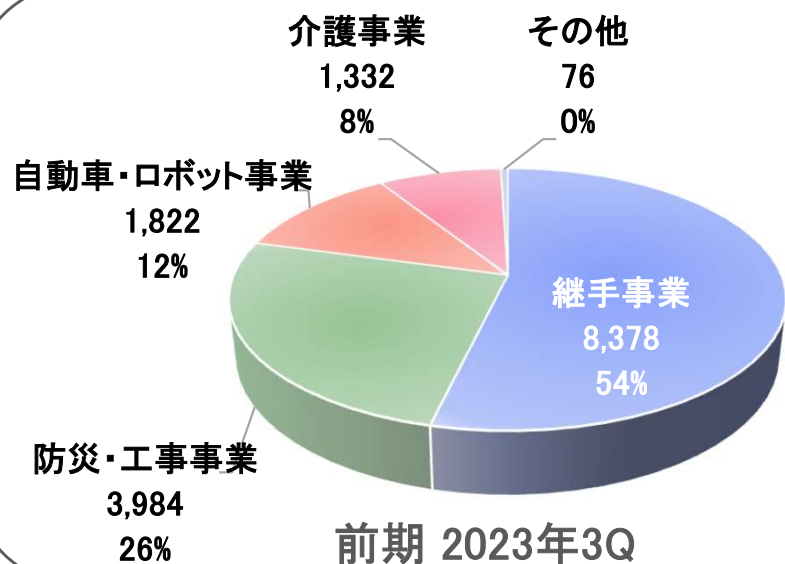
- ✓ 連結営業利益の増加により、前年同期比 60.7%増となりました。
- ✓ 親会社株主に帰属する四半期純利益も、前年の親会社株主に帰属する当期純利益(966百万円)を上回りました。

2024年12月期 第3四半期 連結業績 2 四半期業績の推移

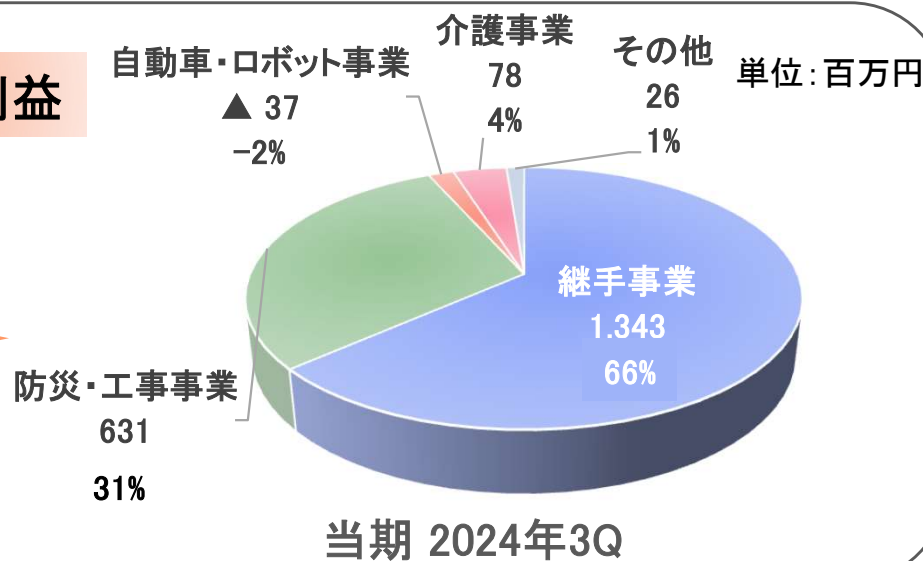
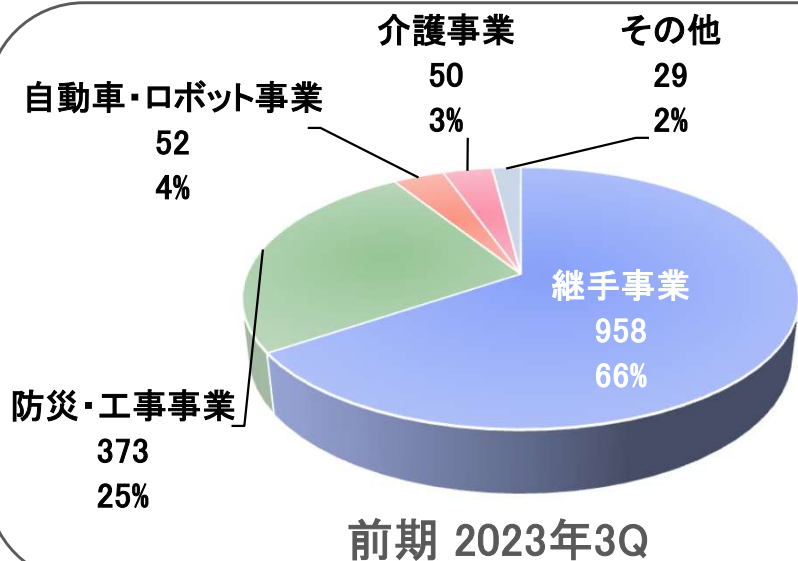


- 四半期業績は、半導体工場の設備投資や再開発事業といった大型案件の売上を計上するタイミングによって、大きく変動します。
- 2022年2Qの親会社株主に帰属する四半期純利益が大きいのは、連結子会社であった(株)アクアリザーブの吸収合併に伴う税効果によるものです。
- 前期は、為替影響や物価高騰等から連結営業利益率が低下し、前期3Qには4.8%まで下落しましたが、当期の連結営業利益率は、3Q累計で9.8%(当期3Qは9.5%)となり、前年同期の6.9%を2.9%上回りました。

売上高



セグメント利益

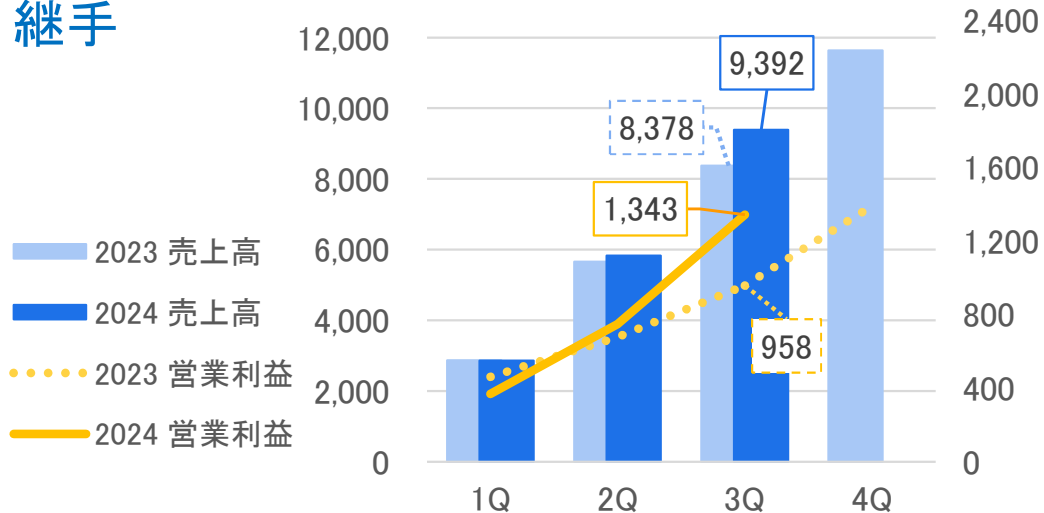


2024年12月期 第3四半期 セグメント業績 前年同期比(累計)

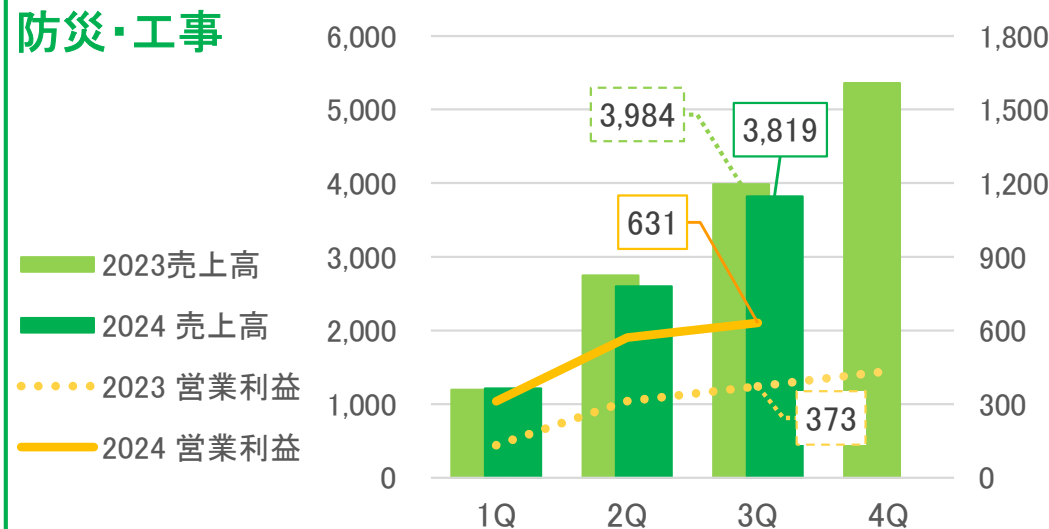


単位:百万円

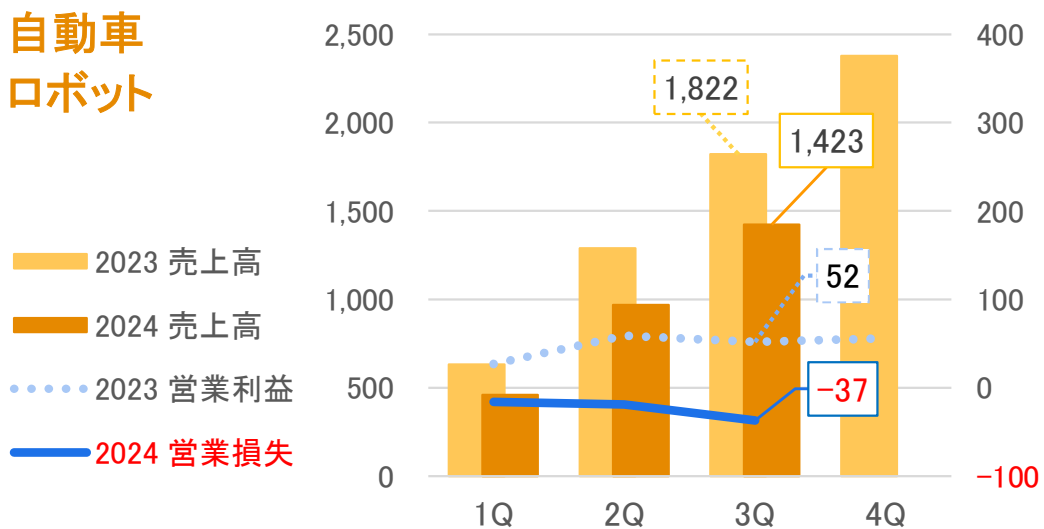
継手



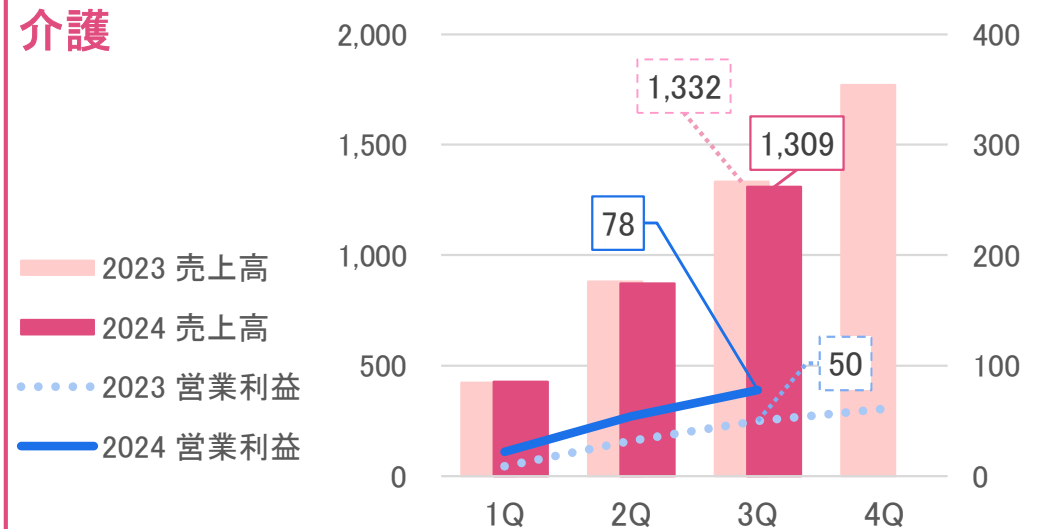
防災・工事



自動車 ロボット



介護



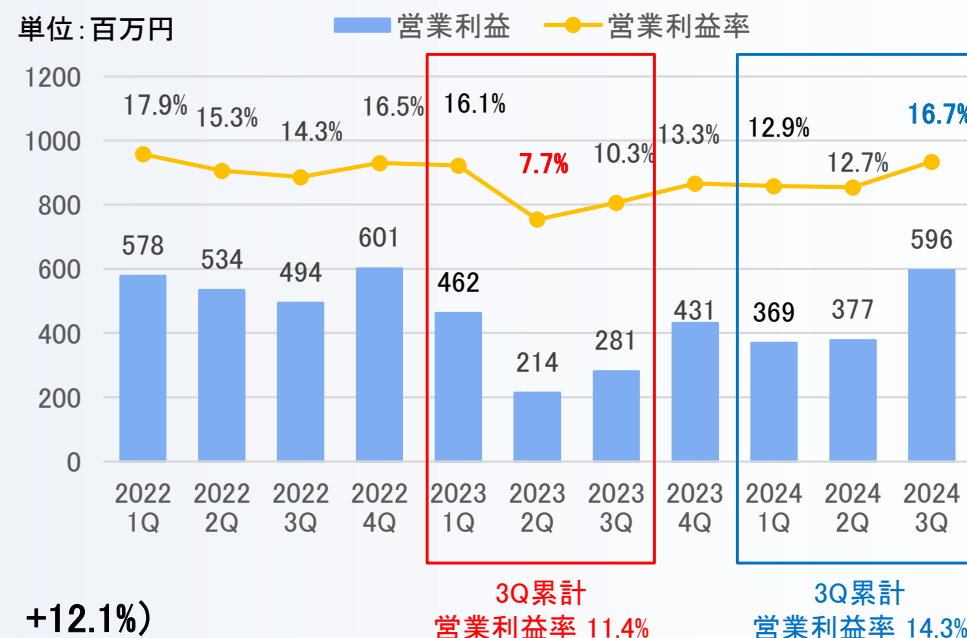
- 売上高は、主力の継手事業が増収、他の3セグメントが減収でした。
- 営業利益は、自動車・ロボット事業が営業損失を計上しましたが、他の3セグメントは増益でした。

◆ 継手事業

売上高の推移



営業利益の推移



■ 売上高 9,392百万円 (前年同期比 +1,013百万円、+12.1%)

■ 営業利益 1,343百万円 (前年同期比 +385百万円、+40.2%)

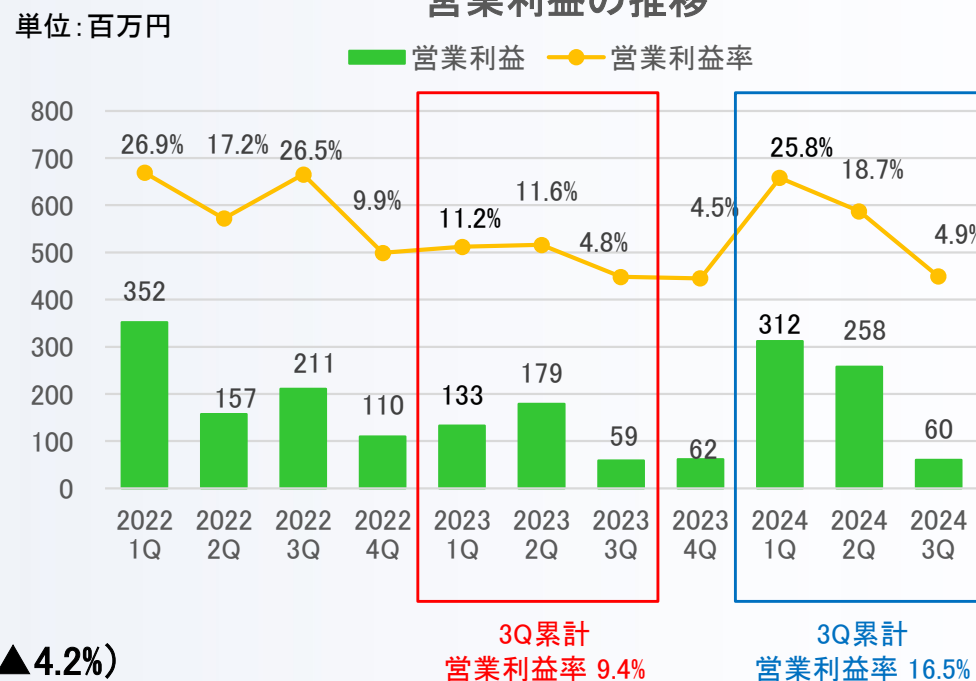
- 海外の半導体関連の売上高が前年同期比で約2倍強(伸長率108.2%)に増加し、継手事業の売上を牽引しています。
- 国内では、半導体関連企業の設備投資が、再開してきました。
- 営業利益は、前期 2Qに利益率が落ち込みましたが、次第に回復し、当期 3Qは16.7%となりました。
- 3Q累計では、当期の営業利益率は14.3%ととなり、前年同期比の11.4%を2.9%上回りました。

◆ 防災・工事事業

売上高の推移



営業利益の推移



■ 売上高 3,819百万円 (前年同期比 ▲165百万円、▲4.2%)

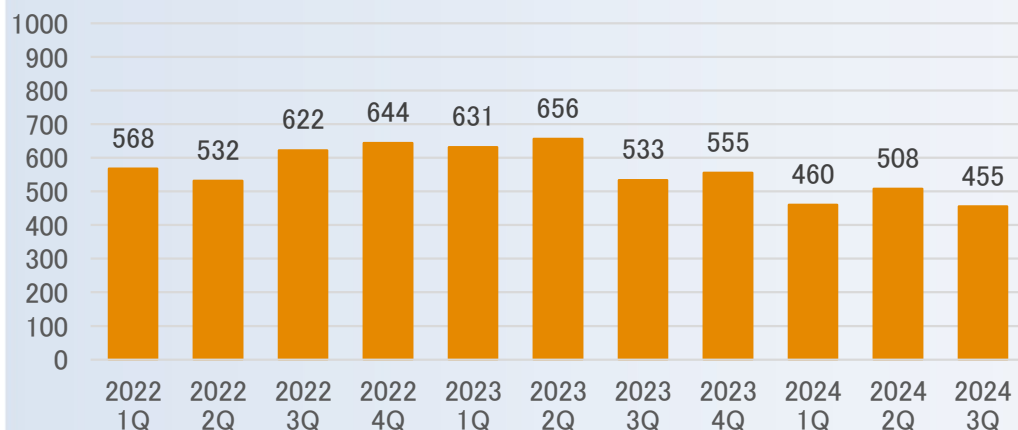
■ 営業利益 631百万円 (前年同期比 +258百万円、+69.4%)

- 当期は、時間外労働の上限規制が強化され、建設業界全体的に工期が長期化している影響から、売上高が、前年同期比マイナスとなりましたが、不採算案件が発生していないことと、利益率の高い大型案件を売り上げたことから、営業利益は、前年同期比プラスとなりました。
- 工事業は、売上計上のタイミングで四半期の利益が大きく変動しますが、当期の連結営業利益率は、3Q累計で16.5%となり、前年同期の9.4%を7.1%上回りました。

◆ 自動車・ロボット事業

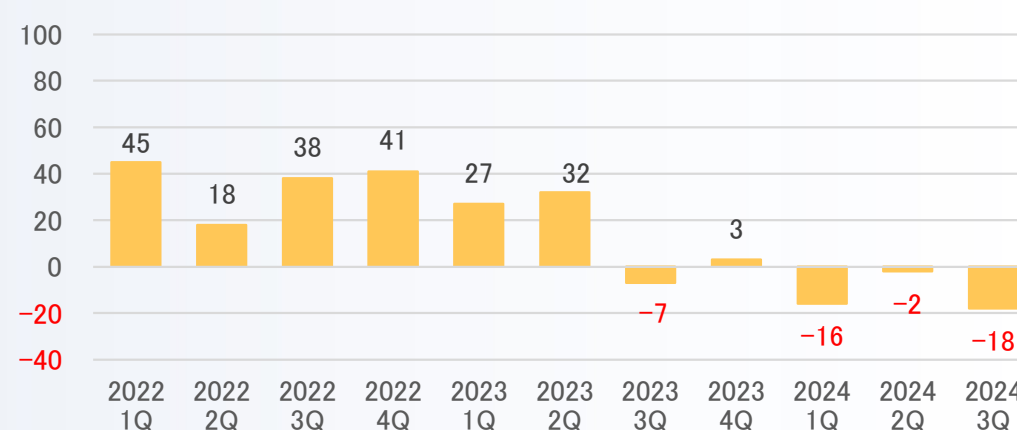
売上高の推移

単位:百万円



営業利益の推移

単位:百万円

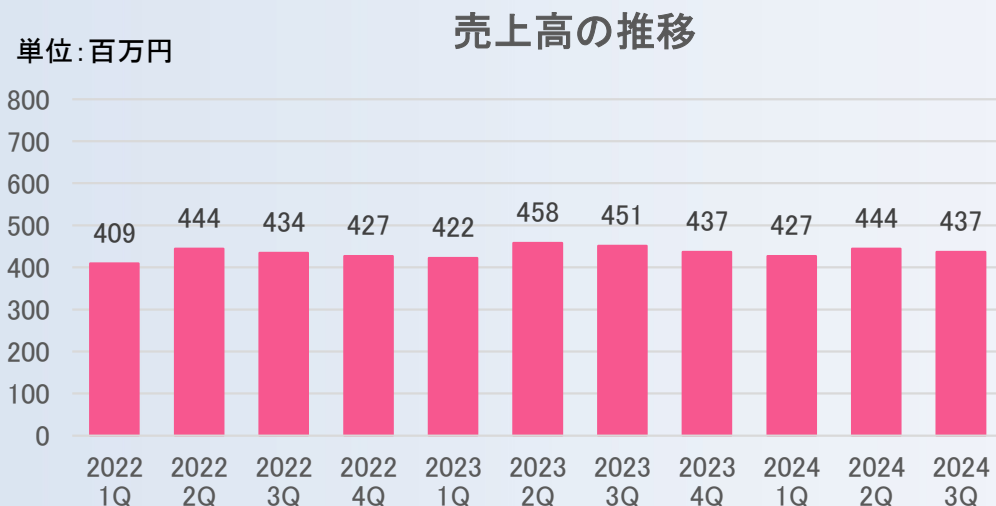


■ 売上高 1,423百万円 (前年同期比 ▲398百万円、▲21.9%)

■ 営業損失 37百万円 (前年同期の営業利益 52百万円)

- 自動車分野は、概ね計画通りに進捗しております。
- ロボット分野は、前年下期に始まった大口顧客の在庫調整が長期化しており、厳しい状況が続いております。
- 当事業セグメント全体では、ロボット分野の業績低迷による影響が大きく、減収・減益(営業損失を計上)となりました。

◆ 介護事業



■ 売上高 1,309百万円 (前年同期比 ▲22百万円、▲1.7%)

■ 営業利益 78百万円 (前年同期比 +27百万円、+54.9%)

➤ 売上高は、前年同期比で微減でした。

➤ 営業利益は、販管費等の削減により利益が回復し、前年同期比 54.9%増となりました。

2. 2024年12月期 業績予想

2024年12月期連結業績予想 SUMMARY



◆ 連結業績予想

単位:百万円

	前期2023年 通期業績	当期2024年 通期業績予想 (前期比)	当期2024年 3Q累計業績 (進捗率)
連結売上高	21,242	23,000 (+8.3%)	16,020 (69.7%)
連結営業利益	1,482	2,300 (+55.1%)	1,574 (68.5%)
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	966	1,500 (+55.2%)	1,038 (69.2%)

● 連結売上高

- ✓ 当期は、半導体市況の回復の年と捉え、期末に向けて、半導体関連で売上を伸ばす計画としております。
- ✓ 海外の半導体関連の売上は、当期 1Q終盤から回復し、3Q累計では、前年同期比で売上高が約2倍強（伸長率108.2%）となりました。4Qも、海外の半導体関連で、売上高が伸びるのと思われれます。
- ✓ 国内では、4Qに、半導体関連の設備投資再開や、北海道で来春に稼働する先端半導体工場向けの出荷が加速し、売上を伸ばす見込みです。

● 連結営業利益

● 親会社株主に帰属する当期/四半期純利益

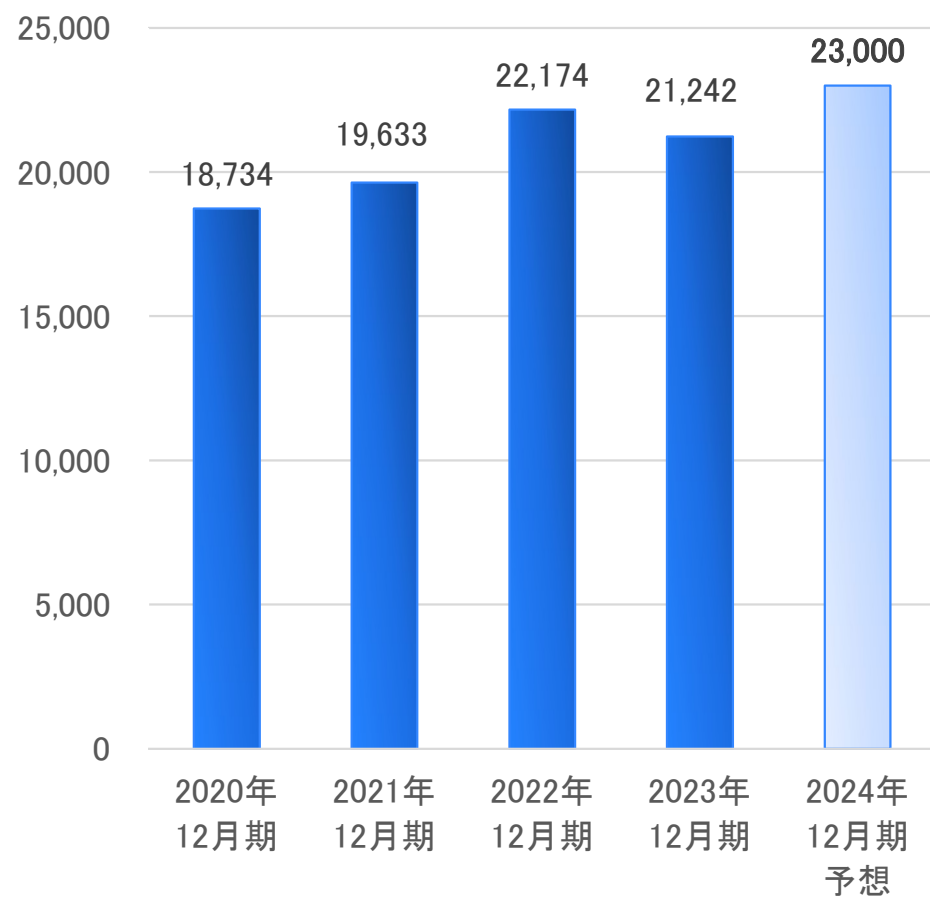
- ✓ 連結営業利益と親会社株主に帰属する当期/四半期純利益は、共に、当期 3Q累計の利益額が、前年通期の利益額を上回っておりますので、4Qは、通期計画の達成を目指し、更なる利益の上積みに努めてまいります。

2024年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



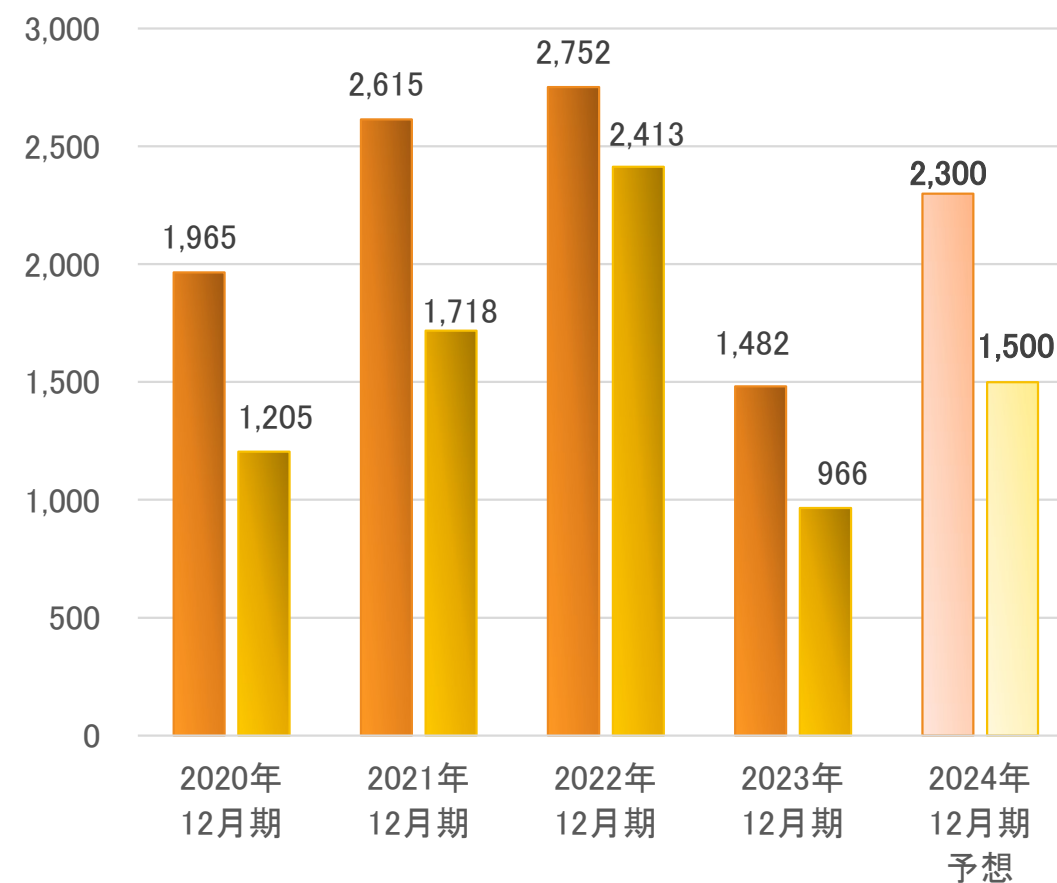
単位:百万円

連結売上高



単位:百万円

連結営業利益 親会社株主に帰属する当期純利益



◆ 継手事業

- 海外の半導体関連で、4Qも売上を伸ばす見込みです。
- 国内の半導体関連市場は、4Qに、メーカー各社の設備投資再開が来年の本格化に向けて加速すること、北海道の先端半導体工場が来春の稼働に向けて設備投資を本格化すること等から、売上が伸びる見込みです。

◆ 防災・工事事業

- 北海道の先端半導体工場の関連では、4Qに、消防設備工事が完成し、真空配管の加工が始まります。
- 不採算案件の発生防止に努め、計画達成に向けて利益の積み増しに努めてまいります。

◆ 自動車・ロボット事業

- 自動車分野は、堅調に推移する見込みです。
- ロボット分野は、大口顧客の在庫調整により、期中は厳しい状況が続く見込みですが、同顧客の発表では、ロボット需要はいずれ戻ってくると予想されており、来期以降の市況回復に備えてまいります。

◆ 介護事業

- 引き続き利益率の向上に努めると共に、売上高の増加に取り組んでまいります。

3. 海外半導体関連市場への対応

当社グループにおける半導体関連事業の歴史

- 当社グループの半導体関連事業の歴史は、1990年代に遡ります。当時、世界有数の半導体メーカーであった国内企業が、福島県会津地方に建設した半導体工場の真空配管に係ったのが最初でした。その後、当社の半導体向け真空機器は、国内多くの半導体関連企業で採用されるようになり、2003年には、真空機器の製造を目的としたTF上海(中国上海市の子会社。以下、「上海工場」といいます。)を設立し、海外での製造・販売体制を構築いたしました。2000年代以降は、スマートフォンの普及などが追い風となり、半導体関連の市場は大きく成長しました。最近ではAI向けの半導体が急成長するなど、半導体関連の市場には益々の発展が期待されています。

近年の動向

- 国内では、2010年代後半から、大手半導体メーカーによる大型の設備投資が続き、それと共に、当社グループの国内半導体関連事業は成長してまいりました。現在は、政府の援助を受け、北海道では先端半導体メーカーの工場が、九州では台湾の大手半導体メーカーの工場が、それぞれ建設中であり、国内の半導体市場は成長を続けております。
- 海外では、日本以上に大きな半導体関連市場が形成されているものの、近年は、当社グループの半導体関連の売上に成長の鈍化が見られており、当社グループでは、その主な要因を、①上海工場の生産力と、②米中関係の悪化と考え、対策を講じることいたしました。

海外市場への対応

- これまで海外の半導体関連製品は、上海工場の1拠点で製造しておりましたが、拡大する半導体市場への対応としてTFベトナム(ベトナム国ホーチミン市の子会社。以下、「ベトナム工場」といいます。)での製造を開始し、2拠点での製造・供給体制を構築いたしました。
- ベトナム工場からの出荷が始まり、米中関係の悪化で中国製品の購入に制約を受けていた米国顧客に対しては、ベトナム工場からの出荷に切り替えました。その結果、対象顧客の当期売上高は、前年同期比で2倍以上に増加しました。
- また従来は、欧米と中国向けの出荷が中心でしたが、ある米国顧客が中国の工場を閉鎖してマレーシアに工場を移転する際に、新たにマレーシアへのお荷を開始して対応したことで、当該顧客の当期売上高は、前年同期比で約1.9倍に増加しました。
- 上海工場は、ベトナム工場での製造開始に伴い、中国国内での事業拡大に取り組んでおり、中国の大手半導体メーカーについては、当期売上高が、前年同期比で約2.3倍に増加しております。



▲ ベトナム工場の外観

当期の状況

- 前ページに記載いたしました当社グループの対応と、海外の半導体関連市場が回復に向かった結果、当期は、海外の半導体関連売上が、前年同期比で約2倍強(伸長率108.2%)に増加し、当社グループの売上を牽引しています。これにより当期は、通期の海外売上高比率が、初めて連結売上高の10%を超える見込みとなりました。

海外半導体関連の顧客

- 海外半導体関連の顧客は、半導体の最終製品メーカーや半導体製造に係わる装置メーカーから、半導体工場に設置される発電装置などの周辺機器のメーカーまで、幅広い顧客を獲得しております。また国別では、米国と中国に本社を置く顧客の比率が高いですが、日系企業の海外工場等への出荷もごさいます。現在の主要な顧客は、下記のとおりです。

業種	本社	出荷先	概要
半導体メーカー	中国	中国	中国の大手半導体メーカー。
半導体検査装置メーカー	米国	マレーシア	米国の大手検査装置メーカーのマレーシア工場。
水素発電装置メーカー	米国	米国	米国の水素発電装置メーカー。半導体工場やデータセンターなどで使用。

今後について

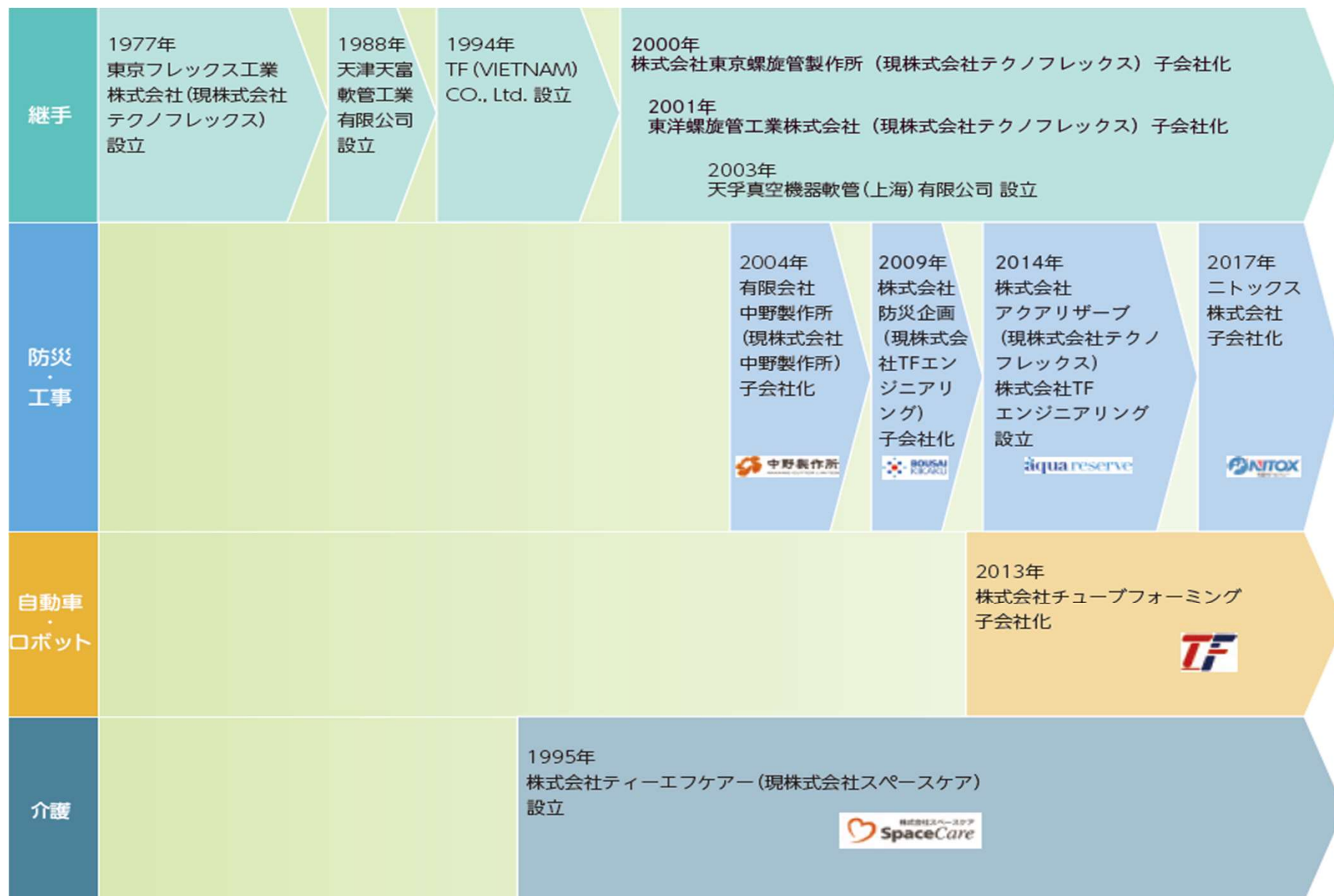
- 海外の半導体市場は、国内以上に変動が激しく、また、政治的な影響を受けやすいことから、状況判断と柔軟な対応が求められます。トレンドと世界情勢を見据えつつ、更に海外半導体関連の顧客獲得と売上高の増加策を講じてまいります。

▼ 真空機器のイメージ



(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前一丁目5番1号
資本金	10億円(2023年12月31日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:368名(2023年12月31日現在) 連結:988名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。

生活インフラ

- 水道・ガス
- 水道本管に挿入されるSDFフレキ
- エネルギー
- H₂ Station
- 水素ステーション

産業・先端技術

- 半導体
- 半導体工場
- 医療機器
- MRI装置
- 自動・無人化
- 産業用ロボット

介護

- トイレに後付けされた手すり
- リフォーム
- 介護用ベッド・補助具
- 販売・レンタル
- いつも清潔な介護用品
- リネン

防災

- 断水時にマルチアクアから取水
- 風水害
- インテリジェントビル
- 地震
- スプリンクラー消火設備
- 火災

TECHNOFLEX GROUP

※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント



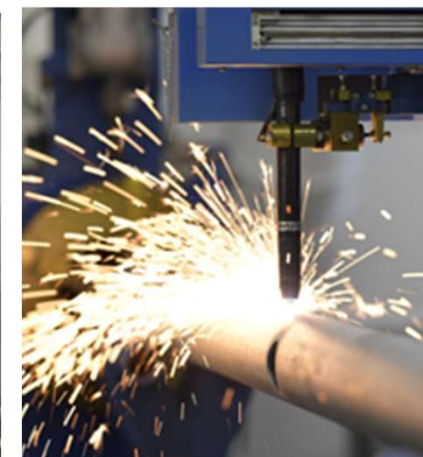
① 継手事業



③ 自動車・ロボット事業



② 防災・工事事業



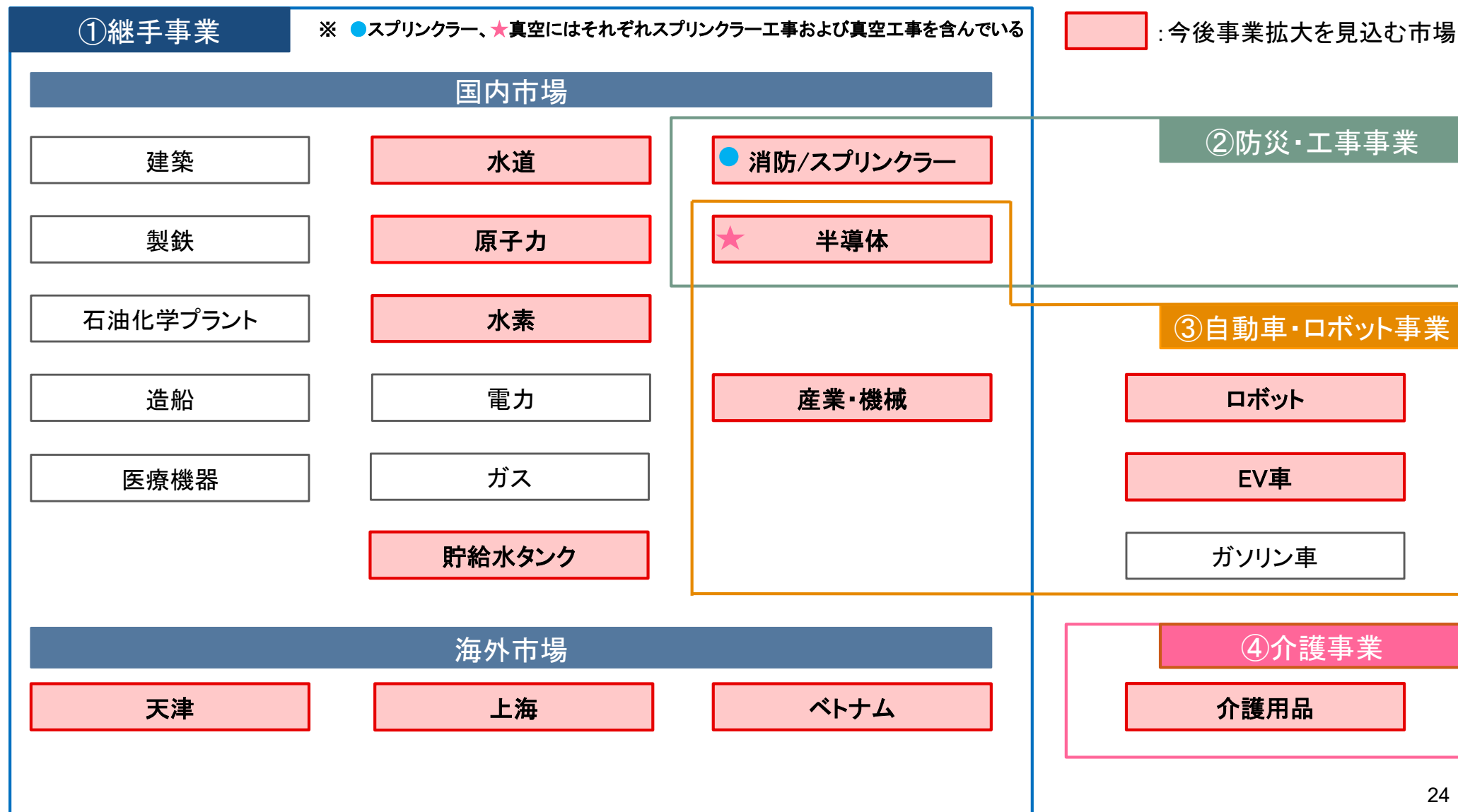
④ 介護事業



マーケットと4つの事業セグメント



- 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては消防/スプリンクラー、水道、半導体、原子力、水素、貯水タンク、EV車、ロボット、産業・機械、商品販売(介護)、海外市場が挙げられます



- ◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目
 - 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
 - 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

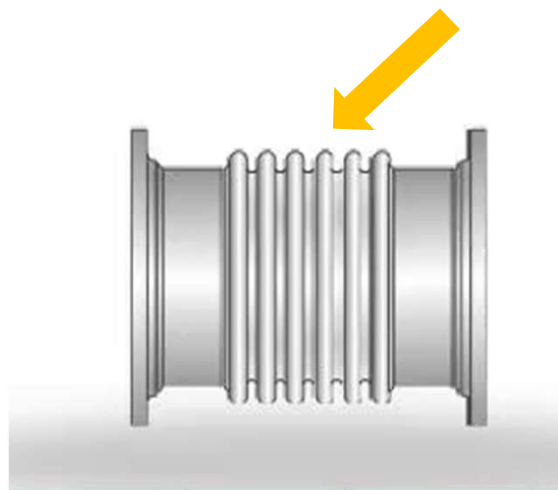
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

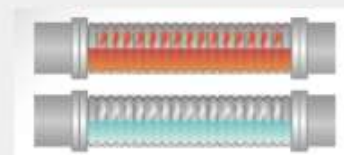
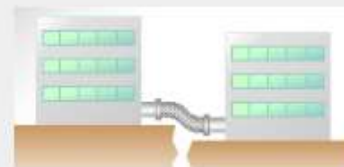


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス



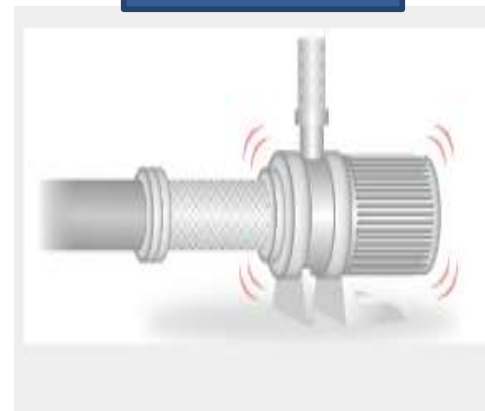
変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



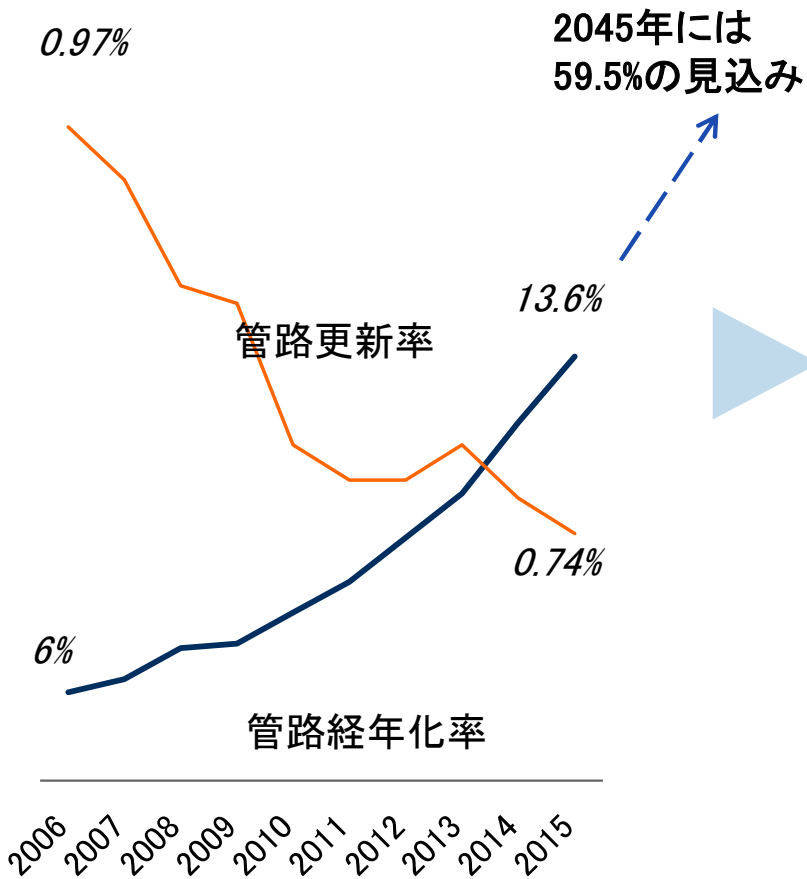
作業効率



大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。



SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)

賞状

厚生労働大臣賞

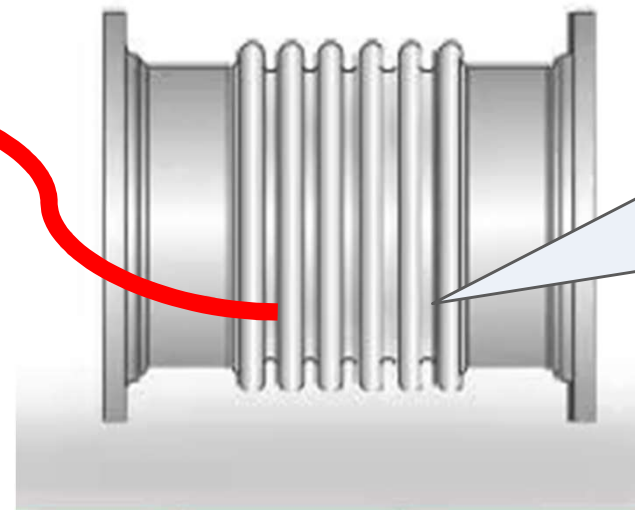
第1回インフラメンテナンス大賞
においてあなたの技術開発は
最も優秀と認められました
のでここに表彰します

平成二十九年七月二十四日

厚生労働大臣 塩崎恭久

- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、伸縮します。角度を付けることもできます。

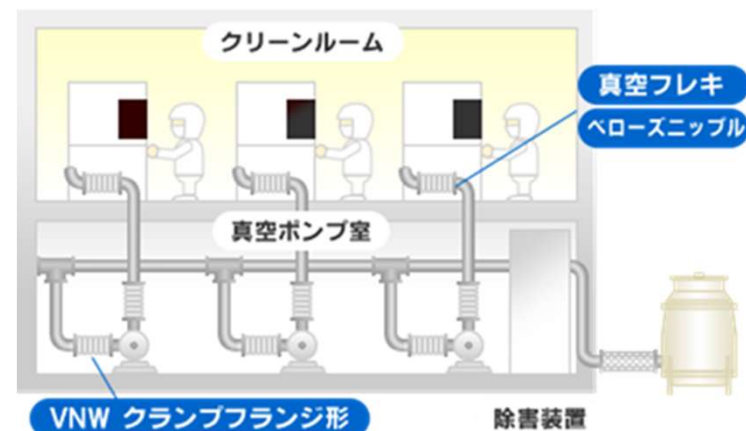
- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

データセンターや医療機器の冷却などの温度調節用配管



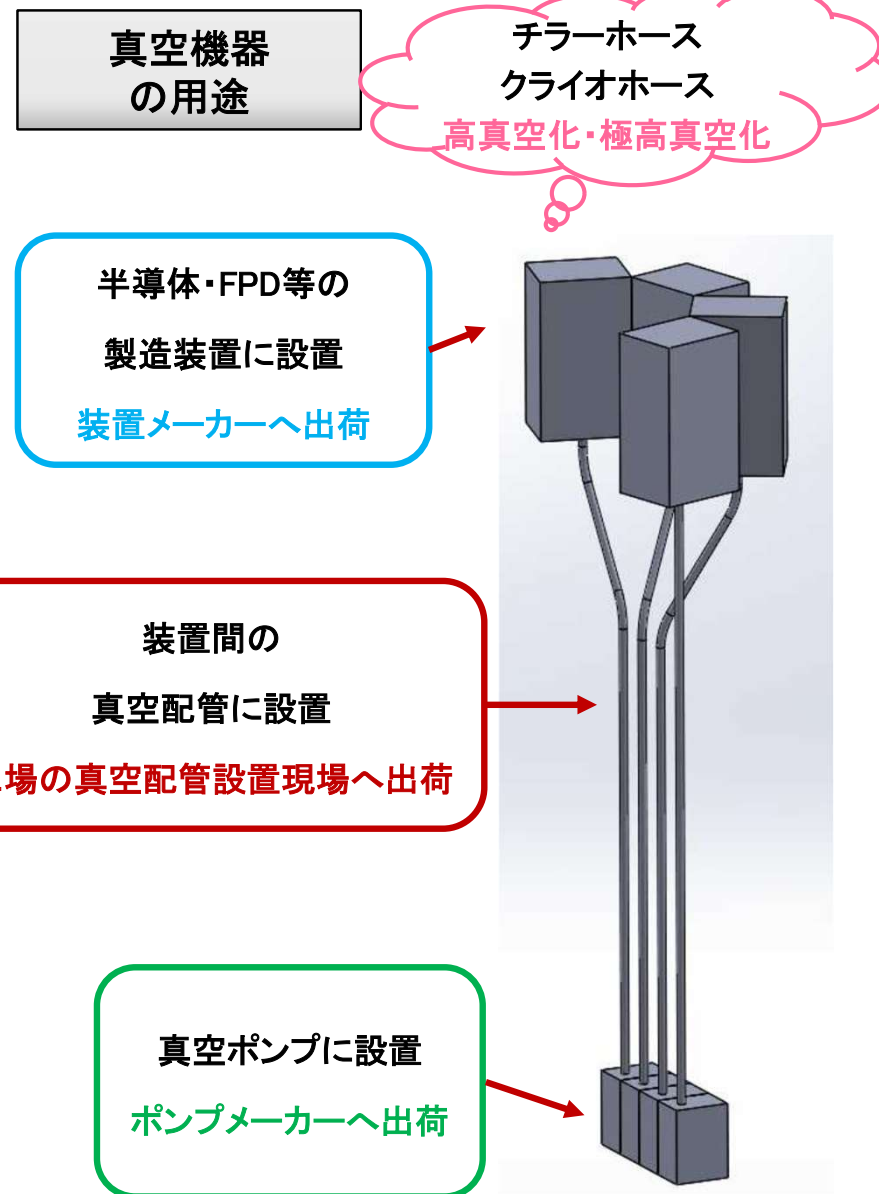
▲半導体工場内の真空配管(イメージ)

● 近年の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - 真空機器の需要が拡大。
- ◆ 当社の真空機器は、半導体・FPD等の製造装置用、真空ポンプ用、装置間真空配管用の3つの用途で、使用。
- ◆ 真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ チラーホース、クライオホースのマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。加温でも使用。
 - 半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。
 - データセンターや医療機器の冷却用としても需要拡大。



防災用貯給水タンク「マルチアクア」

- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け製品「マルチアクアC」。



Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、2つの事業。

消火設備の配管工事 配管のプレハブ加工

- スプリンクラー等の消火設備の配管工事
- 工場で行う配管のプレハブ加工



自動切断機

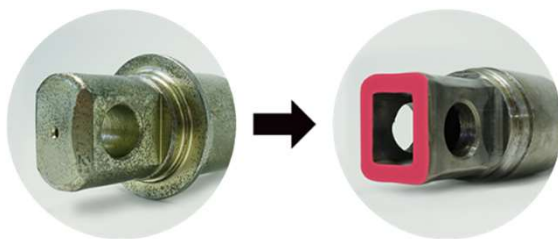
水道管及び電柱の 切断装置

- 自走しながら配管や電柱を切断。
- 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



従来製品

パイプ化製品

介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (5G商用化、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、今後の見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)

- 造船、消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素を成長マーケットと評価しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット	今後5年間の動向
継手 造船	✓ 水素運搬船の実用化に向けた研究・開発が進んでおり、今後の見通しは良好
継手 消防 スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
継手 水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
継手 半導体	✓ 半導体の市場規模は右肩上がりに成長見込み ✓ 政府の支援を受け国内で大規模設備投資が複数進行中。
継手 原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
継手 水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
継手 貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要や、災害時の一時滞在施設の設置推進により、需要が継続する見込み

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
	防災・工事	<ul style="list-style-type: none">✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
自動車 ロボ ット	ガソリン車	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	<ul style="list-style-type: none">✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
	介護	<ul style="list-style-type: none">✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり